

## ウネムシロ *Reticunassa hiradoensis* (Pilsbry)

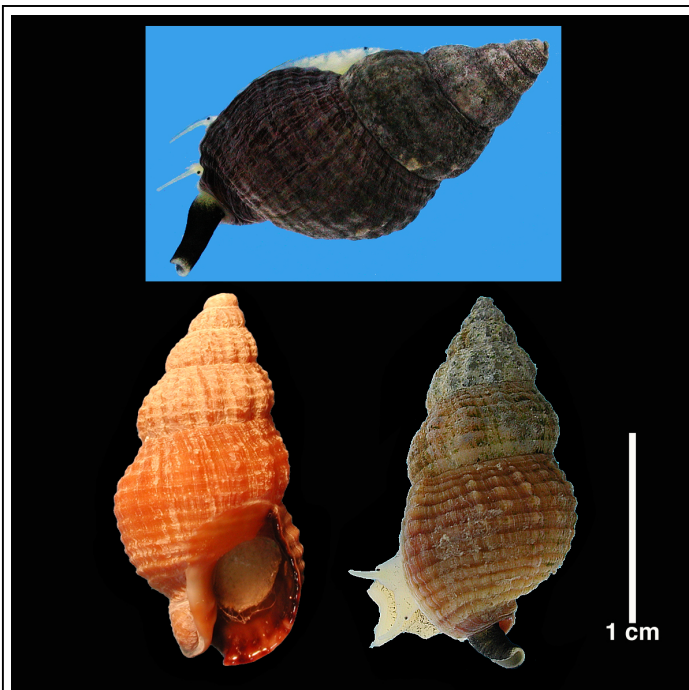
### 【選定理由】

今までにアオモリムシロ *Reticunassa hypolia* (Pilsbry)、クロスジムシロ *Reticunassa fratercula* (Dunker)、ウネムシロは、全て同一種の亜種関係に位置付けられるなど分類が混乱していた(肥後・後藤, 1993; Higo *et al.*, 2001; 土屋, 2000)。しかし、花木・他 (2014) による各種のミトコンドリア DNA による解析の結果では、3 種は独立種である。

県内で本種は、渥美半島三河湾側の海水が淡水と入り交じった状態で砂泥底干潟に滲み出ている特殊な生息環境の 3 ヶ所で生息が確認されている。その付近の干潟には全く生息せず、特殊な環境に限定的に生息している。従って、本種の生息面積は著しく小さく、生息基盤は非常に脆弱である。幸い生息地の 2 ヶ所では健全な個体群が確認されているが、絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。

### 【形態】

殻長約 20 mm で螺塔は高く螺層は膨れ、縫合はくびれる。殻はやや厚く、畦状の縦肋がある。螺肋は、細いが明瞭で殻表面は布目状。殻口は丸く、内唇側には滑層が発達しない。アオモリムシロやアツミムシロ *Reticunassa* sp. とやや近似するが、本種は大型で、螺塔がやや高く、殻の色彩が黄・橙・黒の単色もしくは灰褐色下地に白い色帯が入る 4 タイプが出現し(木村・木村, 2013)、色彩での区別も明確である。



田原市伊川津干潟, 2007 年 6 月 2 日, 木村昭一採集

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

上述したように県内では 3 地点しか生息地が確認されていない。幸いそのうち 2 ヶ所では健全な個体群が確認されている。

#### 【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島北部、中国大陸北部、国内では北海道～九州に分布する(木村・福田, 2012)。

### 【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。腐肉食性である。また、飼育下での観察では卵嚢を産むことなく稚貝が産まれたので、卵胎生である可能性が高い(木村, 未発表資料)。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

【選定理由】の項参照。

### 【保全上の留意点】

内湾干潟から潮下帯の生息環境を保全する。干潟を保全し、水質の富栄養化を防止することが必要である。

### 【特記事項】

本種の生息状況は三重県側の伊勢湾でも危機的生息状況で近年では鳥羽市で生貝が 1 個体採集されたに過ぎない(木村, 未発表資料)。葉山しおさい博物館(2001)では相模湾の個体群が消滅にランクされている。

### 【引用文献】

花木勇太・香取祥人・林 誠司・木村昭一, 2014. ミトコンドリア DNA によるクロスジムシロ種群の予察的系統解析. *Venus* 72(1-4): 148.

葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.

木村昭一・福田 宏, 2012. ウネムシロ, p. 67. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

木村昭一・木村妙子, 2013. オリイレオフバイ科. in: 鈴木孝男・木村昭一・木村妙子・森 敬介・多留聖典(著) 干潟ベントスフィールド図鑑, pp. 33, 145-145. 日本国際湿地保全連合, 東京.

土屋光太郎, 2000. ムシロガイ科. in: 奥谷喬司(編). 日本近海産貝類図鑑. pp.218-224. 東海大学出版, 東京.

(木村昭一)